

# かごしまの農業農村整備 効果事例

## 農家の声

### 畑地かんがい 編



恵まれた気候と農業基盤整備により、  
「オクラ」の生産量日本一

【指宿市 南薩地区】

P1

中山間地に潤う水のちからと流通・観光システムの構築

【霧島市 十三塚原地区】

P2

畑かん利用による  
さつまいもと「若掘りごぼう」の輪作体系の確立

【鹿屋市 吾平南西部地区】

P3

畑かん施設整備を契機に  
高収益作物「実えんどう」の作付が増加

【大島郡天城町 兼久・大津川・瀬滝地区】

P4

令和元年11月  
鹿児島県

# 南薩地区 (鹿児島県指宿市)

# 恵まれた気候と農業基盤整備により、「オクラ」 の生産量日本一

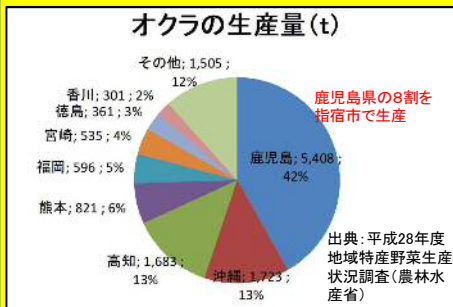


【大規模畑かん施設整備】  
 国営かんがい排水事業(S45~S59)  
 県営畑地帯総合土地改良事業(S47~H6)

【その他整備】  
 団体営事業による末端散水施設整備  
 (S52~S62)  
 県営事業による畑地かんがい施設の更新  
 (H25~R4)

## 【オクラの生産額が飛躍的に増加】

指宿市はオクラの生産量が日本一で、全国の3割を生産している。特に、畑かんを利用する施設（ハウス）での生産量、生産額が大きく伸びている。早い時期から安定した収穫量が確保され、市場では高値で取り引きされている。



## 【農家の声】



JAIいぶすき指宿オクラ部会の皆さん

・ 恵まれた気候と基盤整備（ほ場整備と畑かん）のおかげで、作業の効率化と計画的な営農が出来るようになり、たいへん助かっている。

・ オクラや豆類を中心とした収益性の高い営農ができるようになり、新規就農者も増えてきている。

今後も、安心して水を使えるよう、畑かん施設の更新整備を進めて欲しい。



# 十三塚原地区 (鹿児島県霧島市)

## 中山間地に潤う水のちからと流通・観光システム の構築

畑地帯総合整備事業（施設整備型） H8～H11

畑地帯総合整備事業（担い手支援型） H18～H25



防霜散水による霜害防止



新規作物の導入・観光農園



地域の物産館・直売所

左から有村友志さん、有村幸二さん、末重良規さん

ほっと一息  
**霧島茶**  
霧島市3年連続日本一に

3月に霧知興が開かれた個人部でも1・3・5位

個人部でも1・3・5位

「霧島茶は、産地病」として誕生して10年以上経ち、生産者は競って品質を高め、そのために昨年9月に「霧島茶は、産地病」として誕生して10年以上経ち、生産者は競って品質を高め、そのために昨年9月に...

（令和元年10月25日付け全国農業新聞）

- 防霜散水で、高品質かつ安定した茶の生産の実現（ブランド指定）
- 安定した用水供給による計画的な営農・高品質で安定した作物生産の実現・新規品目の導入・観光農園など農業経営の多様化
- 多種多様な作物の実現による物産館・直売所での販売

### 【農家の声】



A農園の皆さん

- ・ 基盤整備が経営面積の拡大に繋がった。
- ・ 畑かんの通水により必要なときに散水出来ることから、計画的な作付が出来、安定的な収量確保が可能となった。
- ・ 畑かん用水があることで、果樹（ぶどう、なし）に取り組むことが可能となり、観光農園を開園出来た。

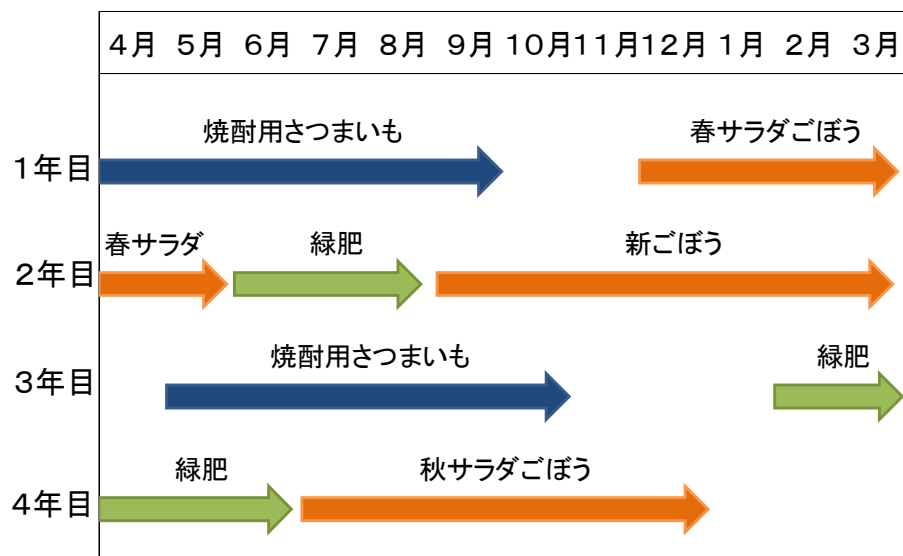
# 国営肝属中部附帯県営事業 吾平南西部地区(鹿児島県鹿屋市)

## 畑かん利用によるさつまいもと 「若掘りごぼう」の輪作体系の確立

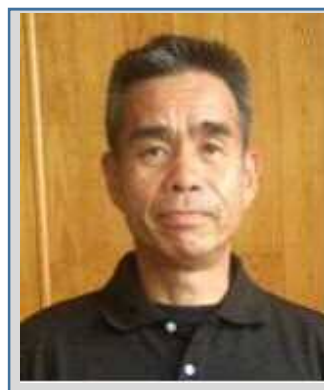
畑地帯総合整備事業(担い手支援型) H24~R4



### ◎若掘りごぼうの輪作体系の確立



### 【農家の声】



農家のKさん

経営概況: さつまいも(4.0ha) + 若掘りごぼう(3.8ha)

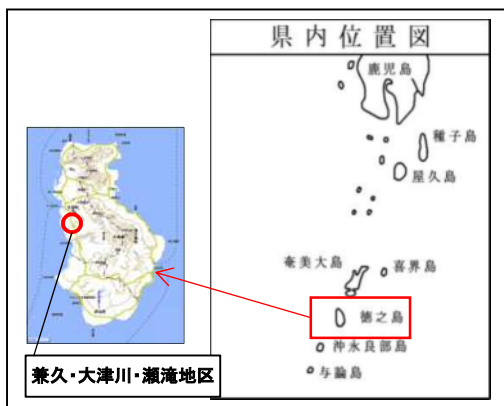
・畑かんにより、計画的に作付収穫ができるので、輪作体系が確立できました。

・播種前後に散水を行うことで、初期生育の促進が図られ、安定した収量が得られるので、設備投資など経営戦略を立てやすくなりました。



# 国営徳之島用水附帯県営事業 兼久・大津川・瀬滝地区 (鹿児島県大島郡天城町)

## 畑かん施設整備を契機に高収益 作物「実えんどう」の作付が増加



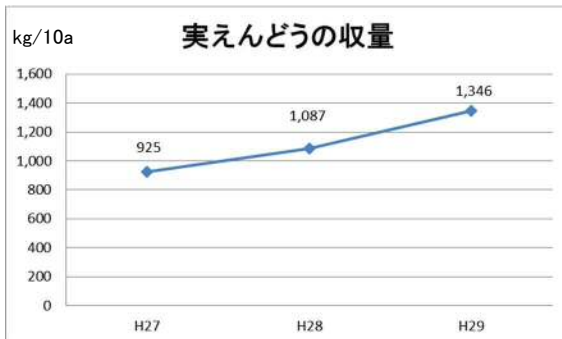
### 主な整備事業

- 国営事業  
【ダム等整備】
  - 国営かんがい排水事業  
(H9～29:徳之島用水地区)  
※H28年7月から通水開始
- 県営事業(国営附帯事業)  
【畑かん施設整備】
  - 県営畑地帯総合整備事業  
(担い手支援型, 一般)  
(H26～R3)

### 畑かん導入による高収益作物(実えんどう)の産地育成

#### 【生産性】

畑かん利用面積の拡大とともに生産性が安定し、29年は1,300kg/10aを超えた。



#### 【栽培面積】

新規栽培者の増加により栽培面積が増加傾向にある。令和元年は10haを越える見込み。



※ データ：実えんどう生産部会全体

### 【農家の声】



高収益作物(実えんどう)の栽培



実えんどう農家のAさん



効率的な散水器具(チューブ)の活用

畑かんによるかん水を行うことで発芽・生育が良好になり、収量も2割程度増加した。

液肥の施用も楽になり、労力の軽減につながりました。